

田辺貴美子Lのメンバースピーチを聞いて

昨年の7月、田辺Lに初めてお会いし名刺交換をさせていただいたときは随分怖そうな先輩だなと感じたのが第一印象でした。その後、何度かお会いしているうちに「にこっと」される笑顔が素敵で優しくそうな方だなと思えるようになりました。

<田辺Lのメンバースピーチ>

私は昭和41年卒業、当時女性は就職が出来なかった。たまたま同級生の高山さんが日本ラーメン工業協会に就職が決まっていた、それを辞退され私に譲ってくれたおかげで就職が出来ました。しかし、昭和41年の12月に日本ラーメン工業協会を退職しました。その理由は選挙の応援を頼まれた為です。(当時、三多摩選出のフクダ・トクヤス先生の選挙応援) その選挙が終わって昭和42年頃から父が経営する会社を手伝っていました。昭和50年、父が舌癌の手術をして舌の3分の2を執り、言葉が不自由になり、私が営業関係をやるようになりました。自分の人生は田辺測量と共に歩んできたと言えます。その田辺測量を運営しているうちに真気学(運命を開く学問)と出会い今日までやってきました。平成7年に父が亡くなり、平成8年頃から友人のテライさんの紹介で本格的に真気学の勉強を始め、浦和のヤタベ先生に真気学を教わりました。先生に「商売をうまくやる方法は簡単です」と言われました。「辰巳の方向に行き、辰巳の向きの家を作ることです」それで先生を信じて言われる通りにやって見ようと思いました。真気学のヤタベ先生に従い練馬区の「ヌクイ」を売却、辰巳の方向へ転居し、練馬区の「中村2丁目」、「大泉学園2丁目」を経て辰巳の方向である現在の練馬区「南田中3丁目」へ転居し、家相の家を作りました。昭和59年に社長になり、この事務所に来て仕事にも困らなく、お金にも困りませんでした。その後、社長を交代してから業績が落ちました。それは社長の自宅の家相が悪くなかったからです。しかし事務所の家相が良いので何とかなると思います。真気学は九星でやるそうです(田辺Lは四緑木星)。このように事務所に真気学を取り入れてきて、それで順調に成功を収めてきました。皆様におかれましても本社・自宅の新築、支店・事務所等を設ける計画のある方は是非、真気学に相談してみてもどうかと思います。以上が田辺Lのお話でした。田辺Lのスピーチを書いたもので誤りがありましたらお許し下さい。

昭和48年7年後の我々の時代もクラスには女性が2~3名程度しかおらず就職では大変苦勞していたことを思い出しました。昭和41年頃の女性の大半者は就職できなかったと言われましたが、大変厳しい時代であったと想像が出来ます。

私は若い頃、亡き父に「真気学・方位学等は否定をするな、科学では究明できないものがあり、過去の人類の先人たちがデータに基づき考えられた学問だ」と言われたことを思い出しました。私は白門ライオンズに入れていただき皆さんと交流させていただいていつも感じていることがあります。私の大好きなサミュエル・ウルマンの詩「青春」の一節に「青春とは人生のある期間ではなく、心の持ち方を言う。時には二十歳の青年よりも七十歳の人に青春がある。年を重ねただけでは人は老いない、理想を失うと初めて老いる。」まさしくこの詩を自で行っている方ばかりです。勿論、田辺Lもそのお一人です。冒頭で申し上げた第一印象は全くなくなり、素敵なナイスレディです。今後の田辺Lの益々のご活躍をお祈りいたします。

2014年11月5日 L石村